

UCCX のための CUIC データ ソースのテクニカルノート

目次

[はじめに](#)

[CUIC データ ソース概要](#)

[CUIC UCCX データ ソース設定](#)

[CUIC データ ソース](#)

[UCCX データ ソース](#)

[ライブ データ転送データ ソース](#)

[パスワード管理 相互対話](#)

[以前のリリースからの変更](#)

[史的記事ユーザ \(uccxhruser \)](#)

[HA の UCCX データ ソース ホストのリダイレクション](#)

[前の UCCX バージョン 10.5\(1\)及び 10.6\(1\)](#)

[シナリオ 1: N1 はマスターであり、データ ソースは両方のノードのための N2 を指しています](#)

。

[シナリオ 2: N1 はマスターであり、データ ソースは両方のノードのための N2 を指しています](#)

[。 N2 でシャットダウンされるエンジンおよびデータベース。](#)

[バージョン 11.0\(1\)及び 11.5\(1\)](#)

[シナリオ 1: N1 はマスターであり、データ ソースは両方のノードのための N2 を指しています](#)

。

[シナリオ 2: N1 はマスターであり、データ ソースは両方のノードのための N2 を指しています](#)

[。 N2 でシャットダウンされるエンジンおよびデータベース。](#)

[ライブ データ転送データ ソース](#)

[トラブルシューティング よくある 問題](#)

[データ ソースを流す Troubelshooting LD](#)

[オフライン UCCX データ ソース提示:](#)

[CCX のためにスタンドアロン CUIC](#)

[UCCX のスタンドアロン CUIC の設定](#)

[スタンドアロン CUIC を統合を用いるよくある Troubeshooting](#)

概要

この資料は Unified Contact Center Express (UCCX) ソリューション、機能性、設定およびトラブルシューティング テクニックで Cisco Unified Intelligence Center (CUIC) 管理 ページのさまざまなデータ ソースを記述したものです。

CUIC データ ソース動作はリリースに変化し、この技術情報は UCCX 11.5(1) リリースから前に見られるように動作の輪郭を描きます。

CUIC データ ソース概要

データソースはサーバとデータベースの SQL クエリを実行するためにサーバをイネーブルに設定するデータベース間の接続につけられる名前です。
ここになされる接続は JDBC 接続です。

CUIC UCCX データソース設定

イメージに示すように、CCX のための共存する CUIC アプリケーションに既に前もって構成される組み込みデータソースの 3 つの型があります。

Data Sources							
	Name	Connected Node	Standby Node	Type	Datasource Host	Database Name	Charset
<input type="radio"/>	CUIC	<input checked="" type="checkbox"/>		Informix	\${HOSTNAME}	\${CUIC_DB_NAME}	UTF-8
<input type="radio"/>	Live Data Streaming Data Source	<input checked="" type="checkbox"/>		Streaming	UCCX-106-232-n1.cisco.com:12015		
<input type="radio"/>	UCCX	<input checked="" type="checkbox"/>		Informix	10.78.93.232	db_cra	UTF-8

Create Edit Delete Refresh Switch Over

CUIC データソース

これはクエリによって基づくデータソースで、TCPポート 1500 上の CUIC database (cuic_data) へのデータベース接続で、**cuic_report** ユーザを CUIC データベースのクエリを実行するのに使用します。

UCCX データソース

これはまたクエリによって基づくデータソースで、CCX 1504 TCPポート上のデータベース (db_cra) へのデータベース接続で、UCCX 史的記事ユーザ (uccxhruser) をレポートを取出すのに使用します。CUIC および UCCX は Informix 両方ともデータソースで、編集可能です。

ライブ データ転送データソース

これはである手動でパラメータそれを変更できないことを Live データに使用する意味する非クエリによって基づく websocket 接続で、編集不可能です。

このデータソースは continuously UCCX エンジンのリアルタイムデータ マネージャ (RTDM) からのライブ データ結果を取出すために UCCX エンジンの SocketIO サービスをポーリングします。これはローカル ノードをマスター エンジン サービスからの結果を取出すので、常に指します。

パスワード管理 相互対話

以前のリリースからの変更

UCCX 11.0 まで、UCCX データソースはデフォルト データベース ユーザーとして **uccxhrc** ユーザを履歴データを取得し、イメージに示すように CUIC に、表示するのに使用します。

Database Name	db_cra
Instance	nonicdreg_uccx_n1_uccx
Timezone	GMT
Database User ID	uccxhrc
Password	●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●
Confirm Password	●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●

イメージに示すように、UCCX 11.5 が開始するとき、データ ソースは UCCX のためにデフォルトデータベースユーザーとして **uccxhruser** を使用します。

Database Name	db_cra
Instance	uccx_106_232_n1_uccx
Timezone	GMT
Database User ID	uccxhruser
Password	●●●
Confirm Password	●●●

また履歴データを引っ張るために UCCX に外部データベースユーザーを接続するのに **uccxhruser** を使用できます (例えば: サードパーティレポートサーバー、か Cisco Workforce Optimization (WFO))。

史的記事ユーザ (uccxhruser)

このユーザは設定、歴史的の、およびリポジトリ データストア (CD、HDS および RDS) に接続でき、これらの特権があります:

- 歴史的、設定およびリポジトリ表への読み取り専用アクセス。
- 保存された手順を実行して下さい。
- 新しいストアードプロシージャを作成して下さい。

バージョン 11.5 が UCCX データ ソースのためにこのユーザを使用するように、パスワードをアップデートするために、にナビゲートして下さい

統一された CCX (Administration) メニューバー > ツール > パスワード管理 > 歴史的報告ユーザ。

それは CUIC の史的記事のために UCCX データ ソースのためのパスワードを自動的に変更します。

この変更設定される HA で他のノードに伝搬させませんそうこれが両方のノードでアップデートされる必要がある。

確認するためにパスワード管理 ページのアイコンをことを両方のノードのパスワード一致をクリックし、クラスタを渡って一貫していると同時にさらに、HA 設定で、一貫性をチェックできます。

パスワード不整合によりデータ ソースはリダイレクションの後でオフラインになります場合があります (例えば: ポスト フェールオーバー)。

HA の UCCX データ ソース ホストのリダイレクション

Cisco はマスター エンジン サービスの余分負荷を防ぐためにレポートを引っ張るように現在のスレーブ ノードを UCCX データ ソースを指すことを推奨します。

史的記事を送ることは時々 `uccxoninit` プロセスの CPU使用を最高にすることができます余分な CPU を奪取し、サーバのパフォーマンスの問題を引き起こしている。スレーブ ノードを歴史的データストアを指すそれ故にこの推奨事項はきちんと整っています。

ここに UCCX パブリッシャ ノード (ノードとして N1 を Subscriber ノード (2) ノードとして 1) および N2 考慮して下さい。

正常なシナリオでは、ノードに両方とも同じノードを指す UCCX データ ソースがあります。

例 :

N1 データ ソースが N1 を指す場合、N2 データ ソースはまた N1 を指します。

データ ソースのリダイレクション 動作は異なるバージョンで異なりまして以下にいくつかのバージョン別シナリオです:

前の UCCX バージョン 10.5(1)及び 10.6(1)

CUIC に最初にログインするとき歴史的データストアはインストールしましたバージョンによってスレーブ ノードを手動で指される必要があります。

ステップ 1. CUIC へのログイン。

ステップ 2. データ ソースをクリックして下さい。

ステップ 3. UCCX データ ソースを選択して下さい。

ステップ 4. 『Edit』 をクリックして下さい。

ステップ 5. スレーブ ノード (スレーブ ノードのそれへのすなわち変更インスタンス名) のそれにデータ ソース ホストを変更して下さい。

ステップ 6. connection を 『Test』 をクリックして下さい。

ステップ 7. 『SAVE』 をクリックして下さい。

シナリオ 1: N1 はマスターであり、データ ソースは両方のノードのための N2 を指しています。

ノード CCX データ ソースのマスターシップの変更でリダイレクションは起こらないし、それがマスターシップの変更の前に pointng だった同じノードを指し続けます。

そうここに N1 NAD N2 データ ソースはこのときフェールオーバーの後にマスター ノードである N2 を指し続けます。

フェールオーバーの前後にそれはイメージに示すように同じノード N2 を、指します:

<input type="radio"/> UCCX	<input checked="" type="checkbox"/>	Informix	10.78.93.234	db_cra	UTF-8
----------------------------	-------------------------------------	----------	--------------	--------	-------

シナリオ 2: N1 はマスターであり、データ ソースは両方のノードのための N2 を指しています。 N2 でシャットダウンされるエンジンおよびデータベース。

この場合その N2 停止の CCX エンジンがデータベースが N2 で締まるデータ ソース時点の変更ではないが、CCX データ ソースは N1 に自動的にリダイレクトしないし、red-X マークとダウン状態になります。この場合レポート補助的なノード データベースを引っ張ることは brough バックアップですことをまたは手動で N1 ノード データベースをデータ ソースを指す必要があります。

フェールオーバーの前後にそれはイメージに示すように同じノード N2 を、指します:

<input type="radio"/> UCCX	<input checked="" type="checkbox"/>	Informix	10.78.93.234	db_cra	UTF-8
----------------------------	-------------------------------------	----------	--------------	--------	-------

バージョン 11.0(1)及び 11.5(1)

CCX データ ソースはスレーブ ノードを自動的に指します一度 HA のためのノード 2 の installtion を完了する。スレーブ ノードをデータ ソースを手動で指す必要無し。

シナリオ 1: N1 はマスターであり、データ ソースは両方のノードのための N2 を指しています。

この場合ノード CCX データ ソースのマスターシップの変更でリダイレクションは起こり、フェールオーバー データ ソースの後で、両方のノードのための N1(now スレーブを) 指します。

N2 へのフェールオーバー ポイントの前。

<input type="radio"/> UCCX	<input checked="" type="checkbox"/>	Informix	10.78.93.233	db_cra	UTF-8
----------------------------	-------------------------------------	----------	--------------	--------	-------

N1 へのフェールオーバー ポイントの後

<input type="radio"/> UCCX	<input checked="" type="checkbox"/>	Informix	10.78.93.232	db_cra	UTF-8
----------------------------	-------------------------------------	----------	--------------	--------	-------

シナリオ 2: N1 はマスターであり、データ ソースは両方のノードのための N2 を指しています。 N2 でシャットダウンされるエンジンおよびデータベース。

この場合その N2 停止のエンジンがデータベースが N2 で締まるデータ ソース時点の変更ではないが、CCX データ ソースは N1 に自動的にリダイレクトします。

N2 のデータベースを停止する前に

○ UCCX	✔	Informix	10.78.93.233	db_cra	UTF-8
--------	---	----------	--------------	--------	-------

N2 のデータベースを停止した後

○ UCCX	✔	Informix	10.78.93.232	db_cra	UTF-8
--------	---	----------	--------------	--------	-------

スレーブ データベースへのそう全面的な常のデータ ソース ポイント。

ライブ データ転送データ ソース

ライブ Data レポートはこの流出データ ソースを使用します。これは Unified Intelligence Center の前もって構成された在庫データ ソースであり、フィールドは編集可能ではありません。ライブ Data レポートはエージェントおよびスーパバイザにリアルタイム統計情報を提供します。エージェントおよびスーパバイザのためのライブ データ (リアルタイム) レポートは CUIC でおよびまた小道具として技巧デスクトップで利用可能送ることができます。ライブ データはサービスを報告する知性 センターによって消費されます。

データ ソース リスト ページで、プライマリ ホスト名か IP アドレスは表示されます。このデータ ソースはそれ故にこれによってが- IP/hostname への N1 および N2 ポイントの IP/hostname へ- N2 の...現在のノードすなわち N1 ポイントへの連続ストリーム接続および常にポイントである Live データ フィードに責任があるソケット IO サービスへのポート 12015 上の websocket 接続をします。

○ Live Data Streaming Data Source	✔	Streaming	UCCX-106-232-n1.cisco.com:12015
-----------------------------------	---	-----------	---------------------------------

ライブ データ Web サービスは他コールのために基本的に利用されます。それに基本的に 3 つの他コールのサポートがあります。

- Auth トークン: 接続するためにトークンが必要となります-ソケット IO サービスへの新しい接続をして下さい。
クライアントは Web サービス残りコールによるソケット IO サービスによってデータ住むために検証される各 Connection 要求のためのトークンを送信します。
- スナップショット 要求: スナップショット 要求は完全で急なショット データを送信 するためにソケット IO サービスを要請することです。
- 認証 URL: この他 API はこのエージェントにヒントを、提供します彼によって LD 小道具レポートののためのビュー データできる有効値である。

CUIC に最初にログインするときこのデータ ソースは証明書がポート 12015 に受け入れられることを必要とします。それ受け入れられる CCX ポート 9443 上のエンジンからのトークンを取出せば、そしてトークンの認証がそれオンライン来た後。

Please accept the certificate(s) from UCCX-106-233-n2.cisco.com:12015 to view streaming datasource status.

何らかの理由でオフラインになるこのデータ ソースによりすべての LD レポートは失敗します。

トラブルシューティング よくある 問題

CUIC データベースから cuicdatasource 表を使用してデータ ソースを問い合わせることができます。
各データ ソースに unique ID があり、同じ acros すべてのバージョンです。これは太字の重要な情報を用いる 11.0 システムから出力される CLI です
SQL を『*』を選択します cuic_data から実行して下さい: cuicdatasource

ID CCCCCCCC00000000AAAAAAAA00000001
名前 CUIC
ローカル CUIC データベースのための説明データ ソース
型 Informix
dbhost \$ {ホスト名}
dbport 1500
dbuser cuic_reportuser
dbpassword {CUIC_DB_PASSWORD}
dbinstance \$ {INFORMIXSERVER}
dbname \$ {CUIC_DB_NAME}
dbencoding UTF-8
jdbcdriverclass com.informix.jdbc.IfxDriver
timezoneid
createdtime 2010-01-27 14:48:14.368
lastupdated 2015-10-14 18:35:15.615
バージョン 1
パーティション デフォルト
sharingpermission 3
5 つを minpoolsize
100 つを maxpoolsize
オーナー 11111111111111111111111111111111AAAA

ID D7D7E1A610000132363635BD3F57F543
名前 UCCX
説明
型 Informix
dbhost 10.78.93.233
dbport 1504
dbuser uccxhruser
dbpassword cuicenc:85b5vBq+dMxD1ZnIWln9A==
dbinstance uccx_106_233_n2_uccx
dbname db_cra
dbencoding UTF-8
jdbcdriverclass com.informix.jdbc.IfxDriver
timezoneid GMT
createdtime 2017-05-18 18:03:52.000
lastupdated 2017-05-28 02:18:43.770
オーナー 11111111111111111111111111111111AAAA


ID E1350DCC1000013F000001CB0A4E5B4B
名前ライブ データ転送データ ソース
説明 UCCX はデータ ソース データ転送住んでいます
型流出
dbhost localhost
dbport 9443
dbuser

timezoneid UTC
createdtime 2017-04-05 12:11:00.000
lastupdated 2017-04-05 12:11:00.000
5 つを minpoolsize
100 つを maxpoolsize
オーナー 11111111111111111111111111111111AAAA
brokerurl
topicschemaurl リアルタイム/スキーマ
restuser LiveDataAdmin
restpassword ~12Live_Data!12
tokenurl livedata/トークン/新しい
websocketport 12015

取得される 3 列。

データ ソースを流す Troubelshooting LD

来る LD データ ソースに関してはオンライン最初に CUIC に最初ログインのポート 12015 で提供する証明書を受け入れる必要があります-->datasource ページ:
証明書をそれ受け入れた後 futher はエンジンのトークンを検証します。LD データ ソースがそれでも示せばオフライン下記のチェックは実行する必要があります:

○ Live Data Streaming Data Source  Streaming UCCX-106-233-n2.cisco.com:12015

- **utils NTP ステータス**を使用して NTP をチェックして下さい: ライブ イベント発生を同期する必要があると同時にライブ データに NTP の依存関係があります。NTP 層 5.を常に確かめて下さい。
- **utils** はテストをネットワークをきちんと検証する必要があります診断します。
- **Ovum** を展開している間使用される不正確なネットワーク アダプタによりライブ データのための断続的な接続解除を引き起こす場合があります。

チェックの上でうまくできます検証ありますデータ ソースがトークン要求を authenticated 得るかどうか。同じを確認するために browser のこの URL を実行して下さい:

<https://FQDN-OF-SERVER.com:9443/livedata/token/new>

username : LiveDataAdmin
password:~12Live_Data!12

直接ブラウザの URL の上の実行がこのエラーを与えれば CCX が提供しない認証トークンをことを確認します。

Firefox は uccx.mapfregenelsigorta.com:9443 のサーバへの接続を確立できません。

そう hiitng 問題 [CSCvb75279](#) の、回避策に関しては TAC に連絡する必要がある可能性があります。

認証の成功はイメージに示すように新しいトークンを与えます:

Save Copy
▼ token: "9e38bfa099afd65ea70b5fc921c6b904ff8bbcf12cd0e1c5fca4186f4c6b2c63902278e284665e50d14502bb14eac64c"

オフラインになる Live データ転送データ ソースのための問題を知って下さい:

[CSCvb67761](#) : ポート 9443 で排出される「maxThreads の後で」オフライン データ転送 出典は住んでいます

[CSCvb75279](#) : オフラインになるために出典を流す LD を引き起こす同期化によりからの MIVR Keystore パスワード

[CSCvc45189](#): 改造およびリストアの後でオフライン ライブ データ転送データ ソース。

オフライン UCCX データ ソース提示:

CCX がデータベース オンラインである確かめ、Cisco Unified CCX データベース サービスは CCX の servicability ページからの稼働中であることを確認しなさいことを。

CCX の歴史的 database (db_cra) に接続する UCCX データ ソースはまた datascource 設定 ページとのパラメータの 1 つが正しくない場合オフラインになることができます。すべての fileds を、他のイメージに示すように正しいですそれできませんデータベースのインスタンスに接続することが確認して下さい。

Database Name	db_cra
Instance	nonicdreg_uccx_n1_uccx
Timezone	GMT
Database User ID	uccxhrc
Password	●●●●●●●●●●●●●●
Confirm Password	●●●●●●●●●●●●●●

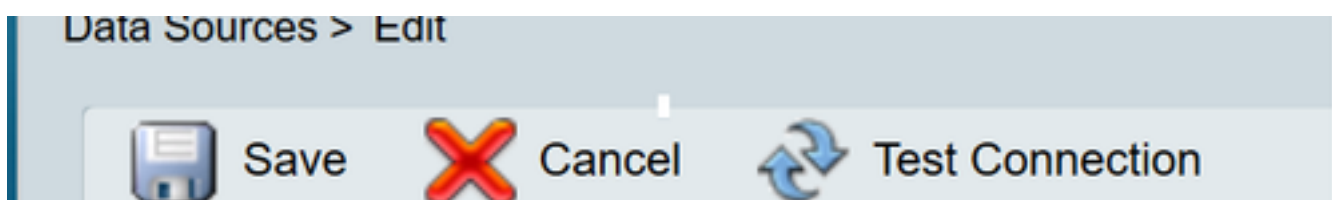
バージョン 11.0 まで uccxhrc ユーザをデータベースに接続するのに使用し、このユーザに保存された手順を実行する許可があります。

CUIC は保存された手順を実行するために uccxhrc ユーザを使用し、このユーザ向けのパスワードはハードコードされます。すべての paratmeters が正しければ従って

オフラインであるデータ ソースがそれからこれらの資格情報とのパスワードをアップデートして試みることができることをまだ見ます:

username : uccxhrc
password : 5:T{i,5e!KqD*8

次に CUIC の下でパスワードを手動でアップデートした後、データ ソースおよび選定された UCCX でクリックし、編集し、テスト接続をし、イメージに示すように、『SAVE』をクリックして下さい:



バージョン 11.5 から CCX データベースに接続するのに **uccxhrc** ユーザ **uccxhruser** をむしろ使用しません。

uccxhruser のためのパスワードはパスワード管理によって維持されます: **CCX 管理 > Tools > パスワード管理 > 史的文章ユーザ**。詳細は **password 管理** トピックの下にこれあります。

注意 : 11.5 を開始している **uccxhrc** ユーザがないのでバージョン 11.5 からのパスワード **5:T(i,5elKqD*8** を使用しないで下さい。11.5 に **uccxhruser** パスワードをアップデートしたら特殊文字の多くの使用と保存することを試みなければパスワードは **parenthesises** が「含まれていないはずです (」。

かっこが使用したら欠陥ID: [CSCvf21099](#)

既知問題:

[CSCvb72142](#): 史的文章ユーザパスワードを変更することは時々 **CUIC** を壊します

CCX のためにスタンドアロン CUIC

バージョン 11.0 からの CCX は既に既存の共存 **CUIC** に加えてスタンドアロン **CUIC** の統合をサポートします。

スタンドアロン **CUIC** は統一された **CCX** を含む多重データ ソースをサポートします。

StandaloneCuic は **UCCX AppAdmin** ページで設定し、カスタマイズされたレポートを作成するのに使用することができたり標準、拡張 なおよび優れたライセンスとインストールすることができます。

UCCX のスタンドアロン CUIC の設定

1. スタンドアロン **CUIC** にログインし、左手引出しからデータ ソースを選択して下さい。
2. **UCCX** データ ソースを『**Create**』を選択し、追加して下さい。データベース ユーザー ID は **uccxhruser** であり、パスワードはパスワード管理 ページで設定 されます:

- UCCX のそののスタンドアロン一致とのデータ ソースのためにつけられるインスタンス名。
- サービスリテリ ページの下の Cisco Unified CCX データベース サービスはインサービスであるはずで